



GIGAスクール構想 第2期 始動

学習用端末の導入から5年が経過し、令和7年11月に市立小中学校の児童生徒へ新しい学習用端末を導入しました。文部科学省の基準に基づき、小学校1年生からケース一体型キーボードを使用してタイピング技能の習得を推進するとともに、デジタル教材への書き込みに対応するためタッチペンを貸与しています。

GIGAスクール構想とは、1人1台端末や高速大容量の通信ネットワーク等の学校ICT環境を整備・活用することによって、教育の質を向上させ、全ての子ども達の可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現することを目的とした国の教育政策です。

GIGA：Global and Innovation Gateway for ALLの略



第1期では、iPadに触れてみることから始まり、コロナ禍における臨時休校によるリモート授業の開始を契機に活用がさらに進みました。一人ひとりがGoogleアカウントを持ち、協働学習やオンライン学習のほか、連絡ツールとしての利用も定着しました。

第2期では、デジタル教科書・教材の活用、国内外とのオンライン交流、学習データの活用による個別最適な学びや、生成AIの活用による創造性を育む学びに取り組むことで、ICTを活用した教育のさらなる質の向上を目指します。

いつでもどこでも通信ができるようにするため、セルラーモデルのiPadを配備し、5G通信にも対応しています。

教員にも児童生徒と同じiPadを貸与し、指導者用デジタル教科書・教材の活用をしています。また、各教室には短焦点プロジェクターを整備し、学習用端末の画面を即時に投影できる環境を整え、考えの共有や話し合いを深めています。

第1期に活用したiPadは適切に初期化した上で売却し、新しい学習用端末を導入するための収入源とします。また、一部のiPadは市役所の業務にも活用します。



学習用端末を利用する際には、稲城市独自の活用ルールを定めています。

- 利用時間の制限
- 学習目的以外には使用はしない
- 写真を撮る時には許可をとる
- パスワードは自分で管理する
- データは指定場所に保存する 等

稲城市のGIGAスクールに関する情報はこちら



▷問合せ 指導課指導係

小中学生英語スピーチコンテスト

12月13日(土)、地域振興プラザにて「小中学生英語スピーチコンテスト」を開催しました。本事業は、稲城市グローバルスタディプログラムの一環として、英語による表現力やコミュニケーション力、国際的視野の育成を目的に行っており、今年度からは教育委員会主催で東京稲城ロータリークラブに共催いただきながら開催しました。

小学校5・6年生21名、中学生39名、計60名が参加し、自分の思いや考えを英語で発表しました。原稿は児童・生徒自身が作成しました。

審査は、東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授の岡田 昭人氏を審査委員長とし、株式会社アチーブゴール法人マネジメント部長の佐野綾佳氏、東京外国語大学大学院生のオコナ・パメラ氏、ナラング・サクシ氏、マリーナ・ハピーブ氏

のほか、市立小・中学校の教員に審査員を務めていただきました。

さらに、「国連を支える世界こども未来会議 FUTURE SUMMIT みらい総会(大阪・関西万博)」に参加した中学校1年生の荒木 佑心さん、麻生友奏さん、高波 泉さんによる発表も行われました。

取組を振り返る中で、「とても緊張したが楽しかった」「練習した通り話せて自信になった」といった声が寄せられ、努力の成果を実感した様子がうかがえました。

自分の考えを英語で発信する経験は、他者と協働し、よりよい社会を考える力につながります。この経験を糧に、英語の学習をはじめ、さまざまなことに挑戦し、今後の学びや成長に生かしていったほしいと願っています。

表彰者

小学生の部

最優秀賞

向陽台小学校 6年生 三木 陽道さん

優秀賞

稲城第七小学校 5年生 佐藤 駿さん

若葉台小学校 5年生 高 瑛駿さん

中学生の部

最優秀賞

稲城第六中学校 2年生 大林 愛由梨さん

優秀賞

稲城第二中学校 2年生 太田 弓子さん

稲城第二中学校 2年生 渡辺 樹さん

稲城第四中学校 2年生 八巻 太智さん

稲城第五中学校 2年生 五十嵐 優羽さん

稲城第六中学校 2年生 竹内 志織さん

▷問合せ 指導課指導係

教育長コラム

No.12



春に向かって

春も間近となりました。この季節になると、必ず、昔読んだある一節を思い出します。

故・大岡信さんのエッセイ、「言葉の力」です。中学校の国語教科書にも長年掲載されていますので、ご記憶にある方もいらっしゃるのではないのでしょうか。この中で、大岡さんは、染織家志村ふくみさんとの対話を紹介されています。志村さんから見せられた「なんとも美しい桜色に染まった糸で織った着物」について、その色は「桜の皮から取り出した色」「桜の花が咲く直前のころ、山の桜の皮をもらってきて染めると、こんな、上気したような、えもいわれぬ色を取り出せる」と聞きます。

そして大岡さんは、「春先、もうまもなく花となつて咲き出ようとしている桜の木が、花びらだけでなく、木全体で懸命になつて最上のピンクの色になろうとしている姿が、私の脳裏に揺らめいた」と綴っています。この文章に出会ってから、私は、

花を咲かせる前の時期の桜の木に出会つと、その幹には桜色のエネルギーが一杯に籠められ、それらがピンク色の蒸気となり溢れ出ようとしていると思うようになりました。

学校という場所は、花や植物、生き物が豊かに生息していま

す。教員として務める中で、四季それぞれの季節、生徒たちと一緒に、自然の移り変わりに感動の思いを得てきました。特に、稲城市の中学校に勤務した時には、冬の時期、地域・保護者の皆様と生徒と一緒に校庭の花壇やプランターに、花の苗を植える活動がありました。12月・1月・2月と、小さな苗の数々は、寒風の中、水と日光、生徒たちのエールを浴び、一歩一歩育ち、春には色とりどりの花々となり、入学・進級した生徒を華やかに迎えました。この冬から春へと育ちゆく花々の姿は、生徒一人ひとりの成長と重なっていました。

冬から春へ、自然界の動植物は、体内にエネルギーをしっかりと溜め、躍動したり花開いたりする春に向かっていきます。私たちも、年度の終盤を迎え、新たに迎える年度のスタートに向け、歩を進めています。

令和7年度の最終ステージに臨み、私は、現時点を、昨年・令和7年中に策定・公表した諸計画・方針の計画実施をさらに充実させるための鍵となる好機であると考えています。

昨年、稲城市では、策定委員の皆様や学校等に「ご尽力・ご協力をいただき、「第四次稲城市子ども読書活動推進計画」本はともだち いなぎの予」(令和7年3月)、「第四次稲城市教育振興基本計画」稲城市教育プラン」(令和7年3月)、「稲城市立中学校部活動に関する方針」(令和7年10月)を策定・公表し、現在は、それらの計画の実施・推進に取り組んでいるところです。

これらのうち、本市の教育分野の総合的な計画である「第四次稲城市教育振興基本計画」は、

社会の潮流や教育を取り巻く環境の変化を見据えながら、「ウエルビーング」の実現、「グローバル」の時代に活かされる力の育成を図るものとして策定しました。本計画中、特に、子どもたちの成長に関する施策については、「施策の柱Ⅱ 未来を創造し生きぬく力の育成の推進」において、「1 確かな学力の育成」「2 豊かな心や創造性の涵養」「3 健康で安全に生活する力の育成」「4 持続可能な社会の創り手を育む教育(ESD)の推進」「5 多様なニーズに対応した教育の推進」「6 子どもたちの学びを支える教育環境の整備」という項目設定をしております。そして、

「新しい時代に求められる資質・能力の育成」と、「5」が目指す「一人ひとりがもつ長所や強みを大切にしながらの、それぞれの能力・可能性の最大限の伸長」、さらに「6」が目指す「教員の働き方改革、学校施設の整備等の教育環境整備」という、全ての項目の一体的な充実・推進を目指しています。

稲城市教育委員会は、この計画のもと、令和7年4月から教育施策に取り組んでまいりました。そのような中、令和7年9月、中央教育審議会教育課程企画特別部会から、次期学習指導要領に向けた今後の検討の基盤となる基本的な考え方としてまとめた「論点整理」が示されました。注目すべきは、「今後の改訂論議を貫く方向性」として、

①「主体的・対話的で深い学びの実装」、②「多様性の包摂」、③「実現可能性の確保」を、「三位一体で具現化されるべきもの」として掲げられている点です。このことは、本市「第四次

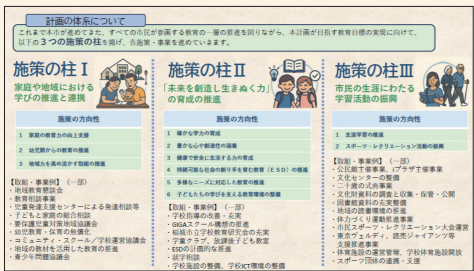
教育振興基本計画」の「施策の柱Ⅱ」において、先に挙げた「1」から「6」を同時進行・一体的推進を図っていくものとして設定したことに重なり通じるものであり、本市計画は、社会情勢や時代のニーズを見据え次代に活躍する人材育成に資するものであるとの確証を得た思いであります。

この認識のもと、現在、教育委員会は、春に向かって、「次の学習指導要領に基本的な事項が繋がっていく現行学習指導要領実施の確実な検証」、「多様な教育ニーズに対応するさらなる体制準備」、「教育活動充実と連動した働き方改革の方向整理」に、取り組んでいるところです。

厳しい冬の時期の一日一日を、大切に、確かな振り返りとエネルギーの確保を積み重ね、令和7年度から令和8年度へと、向かってまいります。

稲城市教育委員会教育長
杉本真紀子

【引用・参考】大岡信「言葉の力」



「第四次稲城市教育振興基本計画のポイントをやさしく紹介!」より抜粋

「令和7年度 稲城市地域・教育フォーラム」を開催しました!

1月24日(土)、中央文化センターホールにて「令和7年度 稲城市地域・教育フォーラム」を開催しました。第一部では稲城市の子ども達の成長を支える地域団体の皆様による活動事例の発表が行われました。

- 二中ブロック テーマ【地域の諸機関と連携した子どもの育成】発表者 西野 香里氏
- 四中ブロック テーマ【小さな関わり、コツコツと】発表者 西田 和弘氏・松浦 恵美氏
- 六中ブロック テーマ【若葉台年表と地域主導の漢字検定実施について】発表者 小林 モト工氏・四方 暁氏

3つの中学校ブロックが各ブロックの特色を活かした活動内容を報告しました。

発表後の質疑応答では、「取り組みを無理なく続けるために意識していることや、活動メンバーを増やすにはどのようにしたらよいか」などの発表内容の具体的な取り組み方について質問がありました。

第二部では「持続可能な地域とともにある子どもの成長を考える」というテーマで対談型講演会が行われました。

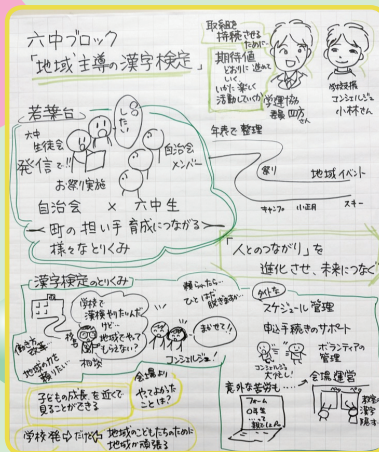
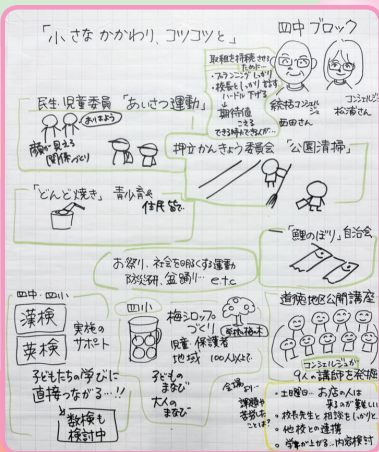
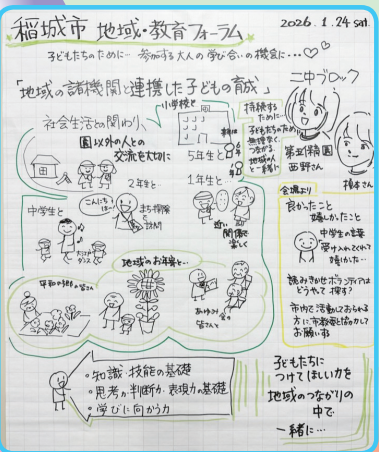
講師 吉岡 拓也 氏 文部科学省 総合教育政策局 地域学習推進課 専門職
市川 重彦 氏 埼玉県公立小・中学校 校長 社会教育士
ファシリテーター 杉本 真紀子 稲城市教育委員会教育長

対談では、地域の子どもの成長のため、大人同士が学び合いながら楽しく取り組んでいくこと、大学生等の若者を地域・教育に巻き込むことの大切さ等を語り合いました。

また、本フォーラムの内容を勝部千恵様に絵とキーワードを用いたグラフィックレコーディングでまとめていただきました。ビジュアルな振り返りを体感できるものとして、大変好評でした。グラフィックレコーディングの一部を紹介します。



質疑応答の様子



▷問合せ 指導課指導係

未来を語る中学生会議

11月6日(木)、稲城市役所議会会議室をお借りし、「未来を語る中学生会議」を開催しました。この会議は、昨年度まで実施していた「稲城市長と中学生との懇談会」を発展させたもので、市立中学校の代表生徒が自分の意見を論理的に伝えながら議論を深める貴重な機会として設け、市議会の一般質問形式を模した内容としました。

会議では、生徒からの質問に対して教育部関係管理職が答弁する形で議論が繰り広げられました。さらに各校の代表生徒による意見表明も行われ、未来の稲城市に関する思いと提案が力強く語られました。



▷問合せ 教育総務課教育総務係

中学校職場体験

本市では、地域の事業所の皆様の温かいご協力をいただき、毎年「職場体験学習」を実施しています。生徒たちは実際の職場で働く方々と関わり、仕事の大変さややりがいを体感することで、勤労の意義や社会の仕組みを深く学びます。この体験は、将来の進路を考えるとともに、挨拶や礼儀、コミュニケーションなど社会人としての基礎を身につける貴重な機会です。

地域の皆様のご理解とご支援があってこそ成り立つ教育活動であり、子ども達の成長を支える大切な学びの場となっています。今後とも温かいご協力をお願いいたします。



▷問合せ 指導課指導係

市立小学校のESD取組紹介

稲城第二小学校

稲作体験学習

令和7年度の稲作体験学習が無事に終了いたしました。春の籾ふり・田植えから、秋の稲刈り・収穫に至るまで、地域の農家、農協の皆様には大変お世話になりました。学年ごとに役割を決め、そのバトンを引き継ぎながら、二小全員でもち米作りに取り組みました。

収穫したもち米は、12月24日(水)の収穫感謝祭「みんなの思いをひと

つに」にて餅つきをし、紅白餅にして稲作協力者の皆様に配布し、感謝の思いを伝えました。全校児童にも配布し、各ご家庭で美味しく召し上がっていただきました。

この活動を通して学んだ「感謝の心」「協力することの大切さ」「食の有難さ」をこれからの学校生活に役立てていきます。



不登校対応合同報告会を実施しました

1月23日(金)、不登校支援の充実を図るため、市立小・中学校が参加する「不登校対応合同報告会」を開催しました。本報告の目的は、誰一人取り残さない学びの環境づくりに引き続き取り組み、教育委員会としても学校だけでなく市全体で子どもたちを支えるための大切な機会をつくることです。

当日は、市立小中学校教員、民生委員、児童委員、学校運営協議会委員、学校支援コンシェルジュ、幼稚園関係者、行政職員、市立小中学校保護者、民間企業等、また市外からも参加し、学校での支援体制や効果的な取組を共有しました。今後、教育と福祉が連携して子どもを支える体制づくりを進めてまいります。



▷問合せ 指導課指導係

「稲城チャレンジクラス」開設

「稲城チャレンジクラス」とは「不登校対応校内分教室」であり、令和8年4月より稲城第五中学校内に開設する予定です。このクラスは、心理的・情緒的な理由などにより登校が難しい生徒を対象とし、生徒一人ひとりの状況に応じた支援と学びの場を提供します。正規教員が担任を務め、スクールカウンセラーや養護教諭、福祉分野等とも連携しながら、少人数でのきめ細やかな支援を行います。週20コマ程度の授業を通じて、安心して学校生活を送れる環境づくりを目指します。



▷問合せ 指導課指導係

稲城市の教育 「イエール」 読者アンケート

皆さんの感想をぜひお聞かせください。



教育委員会の動き

第11回定例会 11月27日

1. 教育行政報告
2. 議案(可決)

稲城市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規程の一部を改正する規程

3. 報告事項

第12回定例会 12月18日

1. 教育行政報告
2. 議案(可決)

令和7年度稲城市教育委員会施策の点検・評価(令和6年度事務事業について)

3. 報告事項

第1回定例会 1月20日

1. 教育行政報告
2. 議案(可決)

令和8年度稲城市公立学校管理職(校長・副校長)の人事について

稲城市立小学校学校運営協議会委員(令和7年度)の解任及び任命について

3. 報告事項

▽問合せ 教育総務課教育総務係

地域とともに歩んだ節目の年 ～市立学校の周年記念式典～

この秋、市立学校3校がそれぞれ周年の節目を迎え、記念式典が挙行されました。式典では、各校が地域や保護者の皆様に支えられながら築いてきた歩みを振り返るとともに、未来への思いが語られました。各校の式典の様子をご紹介します。

11月8日 稲城第四中学校(開校40周年)

稲城第四中学校は昭和60年、稲城第一中学校と第三中学校を母体として開校し、異なる校風を融合させながら教育文化を築いてきました。

式典では、校長先生の式辞を通じて学校の歩みが振り返られるとともに、「生徒一人ひとりの可能性を大切にし、時代に応じたよりよい教育環

境を整えていく」という決意が語られ、参列者の胸を打ちました。

教育委員会からは、ユニセフ学習や生徒主体の学校行事、言語活動の充実など、本校が進めてきた多様な体験・探究活動が、本市のESD推進における好事例であることを紹介しました。また、誰一人取り残さない

教育や、地域・外部専門家との協働など、近年の先進的な取組についても触れました。

40年にわたり学校を支えてこられた教職員、保護者、地域の皆様への感謝とともに、本校が新たな節目を未来への出発点として、さらなる発展を遂げられることを願います。



四中(市長祝辞)

11月15日 稲城第三小学校(開校70周年)



三小(横断幕)

稲城第三小学校は昭和31年の開校以来、保護者・地域の皆様に温かく見守られながら、各時代の教育課題を捉えた実践研究に取り組み、その成果を発信してきました。

式典では、校長先生の式辞とともに学校の歴史を振り返り、「70年の伝統と成果を受け継ぎ、未来を生き抜

く力の育成に努めていく」との力強い決意が語られました。また、在校生に向けた温かい励ましの言葉に、会場全体が共感と感動に包まれました。

祝辞では、地域を学びの場とした体験・探究活動や、人権教育・特別支援教育の取組への敬意とともに、今後予定されている校舎建替工事を、

より良い学びにつなげていくことへの期待が述べられました。児童による探究活動の発表や随所に工夫が凝らされた演出から、学校の温かな教育文化が感じられる式典となりました。



開校70周年記念キャラクター さなちゃん

11月29日 稲城第六小学校(開校50周年)

稲城第六小学校は昭和50年、多摩川を間近に臨む大丸の地に開校し、地域とともに学びを重ねてきました。

とりわけ体育学習の研究は、歴代校長のもとで大切に継承され、昨年度の研究奨励校としての研究発表では、長年の実践をさらに発展させた成果が示されました。

式典の冒頭では、地域に伝わる「大丸囃子」が披露され、温かく賑やかな雰囲気の中で記念すべき一日が幕を開けました。校舎内外には多彩な創作品が展示され、学校と地域が一体となって歩んできた歴史を感じさせる空間が広がっていました。

校長先生の「これからも地域に支え

られながら、次代を生き抜く子どもたちの育成に力を尽くす」という言葉が、会場の心に深く刻まれる式典となりました。



たまりん



なしにい

開校50周年記念キャラクター



六小(大丸囃子)

▷問合せ 教育総務課教育総務係

デフリンピックを通じて分かち合う感動と学び

デフリンピック観戦

令和7年11月に行われた東京2025デフリンピックを市立小・中学校の5校が、現地で観戦しました。各学校は、バスケットボール、バレーボール、バドミントンの中から1種目を観戦し、事前に準備した応援グッズを持参して手話や応援グッズで多くの選手にエールを送りました。短い時間でしたが、子ども達は、競技の臨場感を味わうとともに、世界各国の応援の工夫等にも触れることができました。



市立図書館デフリンピックコラボ展示

市立図書館では、11月5日(水)から11月30日(日)まで「障害者スポーツ特集!～デフリンピック競技大会によせて～」と題して、障害者スポーツ・手話・パラボランティアの資料の他、障害者が主人公の小説や絵本など、幅広い世代に関心をもっていただけるよう工夫を行い、全館で約170冊の資料展示を行いました。また、中央図書館では稲城市ホームタウンアスリートである松永彩珠選手のデフバレーボールでの活躍に合わせ、12月16日(火)まで資料展示を行いました。



学校支援員募集中

市立小・中学校では、教員を補佐し、児童・生徒の学校生活をサポートしてくださる方を募集しています。

①介助員

小・中学校に設置する特別支援学級の児童・生徒の学校生活の支援を行います。

②エデュケーション・アシスタント

小学校において主に第1学年から第3学年の児童を対象に副担任相当の業務を行います。

詳細は市ウェブサイトをご覧ください。



▷問合せ 指導課教職員係

市ウェブサイト

中学校部活動外部指導者募集中

教育委員会では、部活動の外部指導者を募集しています。

中学校の部活動であなたのスキルを活かしてみませんか?

時給:1,300円(交通費支給なし)

申請フォームよりご応募ください。



申請フォーム

▷問合せ 指導課指導係